

令和2年度 若者の社会参加促進事業の取り組み状況について

1 仙台まちづくり若者ラボ

(1) 概要

若者自らがまちづくりに「自分ごと」として関わることができるテーマを設定して「実践型プログラム（ワークショップ・フィールドワーク）」を実施し、その成果を発信・共有することにより、若者の視点やアイデアを様々なまちづくり主体（地域団体、市民活動団体、行政）が取り組む地域課題の解決や地域活性化に生かし、ひいては自発的なアクションを促し支援することにより、「主体的に動く若者」や将来の協働パートナーの発掘・育成を目指す。

(2) 内容・結果

■参加者

- ・29名（内訳：社会人17名、学生12名）
- ・参加者が6チームに分かれ、仙台で「働く」「楽しむ」「住む」「学ぶ」「守る」「共生する」という切り口でそれぞれ具体的なテーマを設定し活動した。

■ワークショップ

- ・計3回（令和2年9月18日、10月22日、11月18日）
- ・各チームに参加者と同年代のメンター（指導・相談役）を配置し、進捗管理や他団体との連携支援など、活動全般を伴走支援した。

■フィールドワーク・自主ワーク

- ・各ワークショップ後に、取材先等へのヒアリングやアンケートの実施を行った。また、チーム内での打合せや最終報告会に向けた資料作成等を行った。

■最終報告会（令和3年1月14日）

- ・各チームが、取り組みの成果や今後のアクションについてプレゼンテーションを実施。TOHOKU360 代表 安藤歩美氏、市長及び参加者から感想等のコメントや講評が行われた。
- ・来場者79名（若者ラボ参加者を含む）
- ・当日の様子はYouTubeにアップロードし配信中。

▼仙台まちづくり若者ラボの様子



2 仙台若者アワード

(1) 概要

若者団体による社会課題解決のための優れた活動を表彰するもの。本市、コカ・コーラボトラーズジャパン(株)、(一社)ワカツクの三者による実行委員会を組織し実施している。令和2年度は、これまで実施してきた「表彰部門」に加え、「協働部門」を新設した。

(2) 協働部門

■目的・内容

若者団体と地域企業とのコラボレーションにより、SDGsの達成に寄与する活動を生み出すことを目指す。地域企業から募ったテーマに沿った活動プランや、SDGsの達成に寄与する活動プランを若者団体から募集し、採用された団体の活動を伴走支援するもの。

(令和3年7月まで活動予定)

■応募団体数・選考結果

4団体から応募があり、実行委員会で選考の結果、次のとおり実施団体を決定した。

テーマ ※協働企業が提案	協働企業	選考した若者団体
学都仙台ならではの資源循環型社会モデルを構築する	(株)SKホールディングス	海辺のたからもの(東北大学中心)、環境サークルたんぼぼ(東北工業大学)
仙台の学生と一緒に考える「未来の働き方」	(株)関・空間設計	建築学生団体RED(東北工業大学中心)

(3) 表彰部門

■応募団体数

14団体(初めての応募9団体)から応募があり、一次審査を通過した10団体が公開プレゼンテーションに進んだ。

■公開プレゼンテーション

令和2年11月26日にオンライン開催(YouTube 当日再生約950回、視聴者約80名)

■選考結果

審査員による審査の結果、次のとおり表彰団体を決定した。

賞	若者団体	備考
最優秀賞	宮城学院女子大学 さくらレオクラブ	仙台青葉ライオンズクラブの協力を得ながら、宮城県立こども病院の子どもたちへ教育支援などを実施。
優秀賞	manaco (マナコ)	宮城教育大学の教育支援ボランティア団体。コロナ禍の社会課題解決のため、ZOOMを活用した学習支援を実施。
優秀賞	千厩町本町通商店街 もとまちのあしあと	東北工業大学中心の建築系学生団体。岩手県一関市千厩町本町通商店街の活性化のために、リノベーションを実施。
会場共感賞	Project San-Eleven (プロジェクトサンイレブン)	東日本大震災の体験談を読者自身が投稿する参加型ウェブサイト、東北大学の学生達により運営。

▼仙台若者アワードの様子

